



4年ぶりに結びの杜で開催された環境福祉フェア(3面に関連記事)



CONTENTS

- P2 理事会・評議員会等報告
- P4-5 インタビュー 神崎晋理事長
- P6 卓球バレー交流大会 in OKAYAMA
- P7 川崎医大病院で4年ぶりにふくのいち

旭川荘 だより

vol.
276

2023.11.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<https://www.asahigawasou.or.jp>



津島児童学院に寄贈された防球ネット
(3面に関連記事)





旭川荘の新しい姿

副理事長 新井 禎彦

神崎理事長の新体制発足後に、私たちは法人内の支部、施設を訪問し、現状、課題を見極めてきました。さらに中堅若手の職員とフリーハンドで意見を交換する「雑談」の場を持つ機会を増やしています。多くの職員がしっかりとした視点を持ち、将来の旭川荘の取り組むべき課題を認識してくれており、大変心強く感じています。

今後、課題を解決するためには、旭川荘は縦割りの上からの指示で動く組織ではなく、自ら考え動く組織を目指す必要があります。

職員全員が日常行っている業務の中にある改善すべき点を発見すること。それをまず職場、施設内で共有して改善策を作り上げ実施すること。それを評価して有効であった改善を同じ分野の施設で共有して広めること。最終的には法人全体で共有して改善を進めることが必

要となります。

このためには職員一人ひとりが日々の業務を新たな視点で見つめ直すことが重要です。慣れ親しんだいつものやり方を漫然と繰り返さず、「今までこれでやってきたのだから変えなくていい」という発想を捨てて、積極的な提案をすることが求められます。改善の実現のために、より大きな取り組みが必要な場合には、理事長と私が提案を受け止め、法人全体としてしっかり対応を進めます。日常の業務のみならず、現場が描く旭川荘の中長期的な構想についても同様です。

踏み込んだ提案、発言をする技術を磨き、一人でも多くの職員が殻を破り、改善への提案を挙げるのが、法人の改善に直接つながる大切な力になります。

旭川荘の新しい姿にどうぞご期待ください。

旭川荘理事会・評議員会等報告

令和5年度第4回理事会を10月11日、評議員選任委員会を同18日、第2回評議員会及び第5回理事会を同23日、ホテルグランヴィア岡山（岡山市北区駅元町）等で開催しました。評議員及び理事の選任に係る議案等について、評議員等の全員の同意等により、原案どおり承認され、末光茂前理事長が同11日付で名誉理事長に就任しました（同10日付で理事退任）。その他の役員を選任については右記のとおりです。

◎就任

【評議員】(2名) 長壽和子 木原光一

【理事】(1名) 赤澤啓史

★評議員の任期は令和5年10月18日から令和7年度定時評議員会終結の時まで、理事の任期は令和5年10月23日から令和7年度定時評議員会終結の時まで。

◎退任

【評議員】(2名) 泉 照子 山本憲世



ごあいさつ

名誉理事長 末光 茂

このたび川崎祐宣初代理事長、江草安彦第二代理事長に続き、私を名誉理事長に推戴いただいたことは、身に余る光栄です。

56年前の1967年、私は江草先生に導かれるように旭川荘に入職しました。川崎先生、江草先生をはじめとする偉大な先達のご指導を受け、また職員の皆さんと苦

楽を共にしながら、旭川荘の理想を思い求めてきた日々は、私のかげがえのない財産です。

先般、16年務めた理事長、36年務めた理事を退任しました。これからは、神崎理事長のもと新しい歩みを進める旭川荘を、頼もしく見守っていきたいと思います。職員の皆さんの活躍を心から期待します。

防球ネットやサッカー用具など寄贈 津島児童学院に岡山岡南RCなど4団体

岡山岡南ロータリークラブ(岡南RC)など4団体の皆さんから津島児童学院に対し9月17日、防球ネット(高さ10メートル、幅14メートル)やサッカー用具などを寄贈していただきました。合わせてファジアーノ岡山のコーチ(普及・グラスルーツディビジョン)によるサッカー教室も行われ、同学院の子どもたちがプレーを楽しみました。

岡南RCの皆さんによる同学院への支援は2019年に始まり、田植えや餅つき、クリスマスプレゼントの寄贈などの活動を通して交流が続いています。防球ネットは施設のグラウンドを囲む既存のネットが低く、子どもたちがサッカーボールなどを思いっきり蹴ることができないことから、岡南RCが親クラブの岡山西南RC、姉妹縁組を結ぶ台湾の台中中興RCの協力を得て、今年8月に学院グラウンドの北側に設置。さらに西南RCと姉妹縁組する台中



目録を受け取る瀧口学院長(中央右)

東南RCを含めた4団体で、ユニホームやボールなどの用具一式とサッカー教室の開催、ファジアーノ岡山の試合観戦招



RCの会員とミニゲームを楽しむ子どもたち

待などもプレゼントしていただきました。

贈呈式には4RCの会員と旭川荘の関係者など約50人が出席。岡南RC、西南RCの代表者から瀧口喜直学院長に目録が手渡されました。瀧口学院長は「心のもった寄贈に感謝申し上げます。子どもたちにとって、自分たちに関心に向けてくれる大人がいて、これからも多くの人が自分たちを助けてくれると体感することが、生きる力になると思います」と謝辞を述べました。

式の後に行われたサッカー教室には、小学4年から中学3年の8人が真新しいユニホームを着て参加しました。3人のコーチの指導のもと、2人一組になってパスの練習をしたり、ゴールに向かってシュートを打ったりして体をほぐした後、RCの会員とミニゲームで対戦。歓声を上げながらグラウンドを駆け回っていました。

4年ぶりに環境福祉フェア 学院祭と合同開催

新型コロナウイルスの影響で、2020年から開催を見合わせていた旭川荘の地域交流イベント「第16回環境福祉フェア」が10月28日、4年ぶりに旭川荘結びの杜で開催され、多くの来場者でにぎわいました。

フェアは同じ敷地内にある旭川荘厚生専門学院の学院祭と合同で開催。旭川荘の関連施設のほか、地元の



日用品を格安で販売するバザー

豊学区愛育委員会、岡山市環境事業課、岡山市エコ技術研究会など13団体が参加しました。

会場では大学芋やおでん、そばなどの軽食や、障害者施設で作った雑貨、クッキーなども販売。恒例の日用品バザーは、お買い得品を買求



遊びながら自転車発電を体験

める人たちが詰めかけました。また、来春から岡山市で始まるプラスチック資源分別回収をPRするパネル展示や、端材を活用した木工教室、自転車発電が体験できるコーナーなどが設けられ、来場者が楽しみながら環境保全や省エネについて理解を深めました。

このほか、ポニーの乗馬体験や「カプラ」と呼ばれる薄い木片の積み木で遊べるコーナーは子どもたちに大人気。ステージでは、うらじゃグループの演舞や学生たちによる歌やダンスの発表、お楽しみ抽選会、じゃんけん大会などの企画もあり、大いに盛り上がりました。

この人に聞く

第1回

社会福祉法人旭川荘 理事長
かんざき すすむ
神崎 晋さん

旭川荘で働いている職員が、どのような思いや考えで業務にあたっているのかを記事にするために、今年度より旭川荘の広報委員が自分の興味がある他施設の職員へインタビューする企画を始めることになりました。初回は6月28日に旭川荘の第4代理事長に就任した神崎晋理事長にお話を聞きました。

聞き手／長壽厚志（いんべ通園センター）

※この企画は今後隔号（4カ月に1回）にて掲載していきます。

Q どのような経緯で旭川荘に来られたのですか

A 鳥取大学医学部で小児科教授として学生に教えていたが、定年を迎え、岡山に戻る際に、ある総合病院から常勤医師のオファーをもらっていた。ちょうど同じタイミングで元療育・医療センター院長の榎原幸二先生、末光茂前理事長、片山雅博先生にお会いして「旭川荘に来ないか」と誘われた。特に榎原先生は岡山大学医学部時代に論文執筆などで大変お世話になっており、ご縁を感じた。旭川荘には医者になってから1～2年目の時によく当直に來させてもらっていたので、思い入れもあった。

Q 旭川荘に来られて最初に思われたことは何ですか

A 旭川荘に来て、療育・医療センターにて勤務をしたが、全く違和感はなかった。前の職場では小児科医として常に40人の入院患者を診てきた。周産期には必ずリスクがあり、最善をつくして一命は取り留めても、障害が残りNICU（新生児集中治療室）からなかなか帰れないお子さんがいた。健康な状態にしてあげたかったが叶わず、無力感を感じていた。なので、現役を退いた後には障害児を診る道に進むことも漠然と考えていた。

障害が残ったお子さん、そのご両親も含めて、退院後には否応なしに大きく生活が変わってしまう。以前は医者として一体何ができるのか見えなかったが、旭川荘に来て具体的に関わることになった。在宅の重症心身障害児・者の生活を献身的に支えている家族のため、安心して預けることができる短期入所が必要である。小さい施設では行うことができないため、地域の拠点として、ある程度の施設規模が必要であると考え。また、お子

さんは大きくなり、親は年をとっていく。一定数の入所施設は必要であると思う。

Q 医療施設と旭川荘のような社会福祉法人に違いを感じることはありますか

A 医療も福祉も困っている人を助けるということでは同じと考えている。医療から福祉へ生活が連続的に移行していく場合もあるし、日常生活の中に医療も福祉もそれぞれ必要とされている場合もある。特に垣根を感じる必要はないと考えている。現在、地域で暮らす重症心身障害児・者のために従来の訪問看護だけでなく訪問診療にも力を入れており、計画的、包括的、継続的かつ、身近な医療の提供を目指している。

Q 旭川荘の職場風土をどのように感じますか

A 理事長に就任してから9月上旬まで各施設への訪問や挨拶まわりを行った。障害種別も多様な中、障害のある人に向き合いながら、各施設の職員はみな真面目に業務にあたられていると感じた。ただ、モチベーションをもっと上げるためには正しい評価が必要である。約2,000人の職員が満足して働ける環境を作っていきたい。

Q 今後理事長として旭川荘の運営で考えられていることは何ですか

A 地域の人が望む医療、福祉サービスを提供するために施設の体制を考えていきたい。施設によっては経営的に安定しているところもあるし、過疎化による人口減少やニーズの変化が生じているところもある。

本部がバランスを取りながらやりくりする必要がある。将来を見据え効率化のため、再編する必要があるかもしれない。しかし、それらを行う前段階として、私たちはもっと外に目を向けるべきであると思う。確実にニーズが減少する中、地域に複数の福祉サービスが存在する。その中で「旭川荘を利用したい」と選ばれる存在にならなければならない。そのためにはサービスの質を上げるために、利用者の声、他のサービスの状況など情報を共有したい。誰もが意見を言えるような風通しのよい組織運営を行っていく。将来計画策定時には、若い人や各施設より意見を集約したい。

また、サービスの質を上げるためには研究発表などで、自らのサービスを科学的にまとめることも重要である。他施設の発表を聞くことで、新たな視点を得ることができる。現在、旭川荘は全国社会福祉協議会、総社市、また、2年前より国立のぞみの園と職員の交換研修を行っている。自分も鳥取大学医学部の際には、若手に1年間都会の病院で最新の医療を勉強してもらった。このような視野を広げる行為は大変重要であり、各施設も同じ視座であってほしい。

今後海外への研修も再開され、看護師の資格認定

制度による専門性の向上も行う中、将来への投資のためお金が必要である。そのために法人全体の経営改善を行っていく。

Q 最後に一言お願いします

A 私たちの仕事は、一人ひとりを大切に作る共生社会づくりを支える大変価値のある仕事。まずは助けを必要とする利用者の方々に大切にしてほしい。そして経験や立場がある職員は、さまざまな障害のある利用者を、心を砕き日々支えている現場職員を大切にしてほしい。



取材 こぼれ話

9月12日の朝、理事長応接室にお伺いすると、神崎理事長はやさしい笑顔で、非常に気さくな雰囲気でお出迎えてくださいました。

初めに理事長のお人柄を知るために趣味や日頃の生活についてお聞きしました。奥様は岡山市内で皮膚科を開業されており、現在岡山大学の近くの生家で二人暮らしをされているとのことでした。趣味をお聞きして、最初に挙げられたのは釣り。鳥取大学医学部勤務時は日本海で、現在は瀬戸内海に船で繰り出し、タイやアコウなどを狙っているそうで、特にタイは引きが強く「63センチの大物を釣り上げた時には腰が抜けそうになったが、生命の躍動を感じた」と嬉しそうに話されていました。釣った魚は自らさばき、刺身、コブ締めなどにして、奥様に振る舞うそうです。



「イノシシには往生する。干し芋を作ろうと植えていたサツマイモを根こそぎやられたよ」と悔しそうに話す神崎理事長

また、自宅に

隣接する農園にも力を入れていて、季節の野菜のほか、ミカン、イチジク、ビワ、サクランボ、カキなどの果物も栽培。畑で使う腐葉土も自身で作

るため、籠を背負って裏山へ行き、何往復もしながら落ち葉を集めるそうです。腐葉土や牛糞、ぼかしなど自然農法で栽培することについて、「それが正しいかなと思う」と話され、本質を見つめながら、決して近道をせず地道に歩まれる方だなと感じました。

その他、カメラ収集の趣味についても古き良き日本の精密機械技術の結晶である機械式シャッターのカメラの魅力について語られたり、木製帆船の模型を組み立てられたりと、博識だけでなく、実際に指先や身体を動かし、深く興味のあるものに向き合っている姿勢が素敵だなと思いました。



にこやかな表情でインタビューに応じる神崎理事長

卓球バレー交流大会 in OKAYAMA 鳥取、香川のチームも参戦

4年ぶりに開催

「卓球バレー交流大会 in OKAYAMA」が9月17日、4年ぶりにひらた旭川荘で開催され、旭川荘の利用者4チームが地力に勝る鳥取、香川のチームに挑みました。

交流大会は2018年に始まり、20～22年はコロナ禍で中止に。今年が3回目になります。岡山県は旭川荘ののぞみ寮、愛育寮、吉備ワークホーム、竜ノ口寮の各チームと岡山県卓球バレー協会の5チーム、鳥取県は5チーム、香川県は4チームが参加しました。

予選リーグは各チーム2試合ずつ行い、勝ち点の上位4チームが準決勝、決勝で対戦しました。旭川荘の選手たちは鳥取、香川チームの強打に守勢を強いられながらも、互いに「ドンマイ」「さあ集中!」と声を掛け合っ

て球を打ち返すなど懸命にプレー。反撃のスマッシュが決まると、チームの間で手をたたいて喜び合っていました。

優勝(みのりサングリーン)、準優勝(トリピー)はいずれも鳥取県チームで、予選敗退した旭川荘のチームでは唯一、のぞみ寮が1勝を挙げました。



香川のチームと対戦するのぞみ寮チーム(奥)



真剣な表情で球を追う吉備ワークホームの選手たち

「再会」テーマに かつこう花祭 かわかみ療護園

「第27回かつこう花祭」を10月8日、かわかみ療護園で4年ぶりに外部の方を招いて開催しました。今年のテーマは「再会・えがお100%」。ご家族や地域の皆様、元職員や他事業所の方々との久しぶりの「再会」に会場は笑顔であふれました。

開会式の後、ステージでは、利用者の富谷和馬さんが作詞し、今年のわたぼうし音楽祭で作詞賞に選ばれた「イイカゲン人生」を作曲者の加藤哲宜さんらが生演奏。利用者によるやまびこコーラス隊や、城南高校生の備中神楽のほか、フラダンス、サックス演奏、プロレスショーもあり、

祭りは大いに盛り上がりました。

出店は、串焼き、バターチキンカレー、焼きそば、カフェ等盛りだくさん。地域の方や他事業所の協力を得て、焼き立て、出来立てをおなかいっぱいいただきました。



やまびこコーラス隊のステージ

(かわかみ療護園 川本真弓)

竜吉せせらぎまつり開催 初の家族参加で賑わう

竜ノ口寮・吉備ワークホーム合同の「竜吉せせらぎまつり」が10月21日、竜ノ口寮南側駐車場で行われました。コロナ禍の2021年に始まり3回目となる今回、初めて家族も参加可能となり、利用者、家族合わせて約200人が会場に集い、皆で賑やかにお祭りを楽しむことができました。

会場には荘内外から6つの事業所の模擬店と、今回初となる一般のキッチンカー3店舗が出店。参加者はそれぞれラーメンやカレー、ピザなど好みのものを購入し、青空の下ゆっくりと味わいました。

アトラクションは、サックスウィンズの癒しの演奏に始まり、名刀太鼓・ショウカライホウが躍動感溢れる演奏・演舞を披

露。利用者数人が太鼓の演奏に飛び入り参加し、掛け声に合わせて一緒に演奏を楽しみました。

まつりの締めのお楽しみ抽選会では、マッサージ器やうまいものカタログギフトなど豪華賞品の数々が並び、当選番号が読み上げられる度に歓声が上がりました。

(広報委員 岡本智子)



利用者が太鼓の演奏に飛び入り参加



お楽しみ抽選会を楽しむ参加者

4年ぶりに旭川荘ふくのいち 川崎医科大学附属病院で開催

旭川荘の利用者たちが手がけた製品を販売する「旭川荘ふくのいち」が9月26、27日に川崎医科大学附属病院（倉敷市松島）で開催されました。

以前は、毎年6月に5日間、製品の販売とアート作品の展示などをしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降は中止に。4年ぶりの実施となります。今回は会期を2日に限り、製品販売に特化した形での開催となりました。

会場では11施設で作られたイノシシ



各施設のおすすめ製品を陳列



好評だった種類が豊富なクッキー

革や木製のキーホルダー、結び織りのマット、陶製の皿やコーヒーカップなどのハンドメイド製品約1,300点を陳列。中でもクッキーやマドレーヌなどの焼き菓子や乾燥しいたけはリピーターも多く、並べたそばから次々と売れていました。訪れた同病院の職員は「以前食べたお菓子がおいしかったので買いに来た。いろいろな種類があるので迷う」と、買い物かごいっぱい焼き菓子を購入していました。

リレーコラム

私の春夏秋冬

4月、年度のはじまりが異常(?)に忙しく、桜の花びらをお見送り。5月になると、花菖蒲が咲くのを楽しみに待つ。濃い紫の花菖蒲が好き。少し郊外に向かうと、民家の庭に揚がる鯉のぼりを目にする。「あまり見かけなくなったな。大きいな!」。マンションのベランダに掲げた鯉のぼりをみる環境にいるので、特にそう思う。そうしていると、梅酒を仕込む時季がくる。6月に入ると蛍の観賞とカジカのキレイな鳴き声で夏のはじまりを感じる。紫陽花の観賞も欠かせない。

7月は土用にこだわることなく「自分都合のうなぎの日」に鰻をいただき、水分補給はスイカが主流になっている。8月、暑さで休憩。水分補給のスイカの産地が熊本→鳥取→山形と変わっていく。9月は彼岸花のお花見。緑の中に真紅の花、こっそり摘んで尾花と一緒に生けてみる。中秋の名月に重なったらなお嬉しく思い、観月会と称し月見バーガーを食べてみる。

10月は、金木犀の香りで秋本番を感じ、ヒヤシンスの水栽培をスタート。今年は何色の球根にしようかと毎年考える。11月は銀杏の色づきと年賀状のデザインが気に

なる月。12月は柚湯に入り、かぼちゃを食べる。ついでにクリスマス会。

1月、水栽培のヒヤシンスが年明けと同じ頃に咲く。開花が早い?おせちが早い?おせちの日にはズレはないが、ヒヤシンスの開花は環境に左右されている。

2月は冬花火。寒いけど空気が澄んでいい感じ。3月のひなまつりが終わったら、すぐ桜のつぼみがふくらんで…あっという間にまた4月…

手帳の中から見える私の春夏秋冬。自分にとって心地いいサイクルの中で仕事をさせていただき、趣味を楽しみ、充実した日々を送ることができるのは、健康と支えてくださるみんなのおかげだと、改めて思う。

(広報委員 宮崎祐子)



岡山駅で「瑞風」お出迎え ひらたえがお保育園の園児ら

ひらたえがお保育園の園児たちが9月27日、JR岡山駅で行われた豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス 瑞風」(京都駅発着)の到着セレモニーに参加。山陽・山陰を周遊する乗客たちを出迎えました。



塗り絵をした瑞風の旗を手に乗客を迎えるひらたえがお保育園の園児たち(右の水色の帽子)

JR西日本岡山支社が幼保育園向けに企画した「お出迎え」に、えがお保育園が応募。選ばれた財田幼稚園の一行とともに、ひらたの年長組園児19人と職員6人がホームで待ち構えました。定刻の午後2時11分、濃いグリーンに金色のラインを配したピカピカの車両がホームに滑り込むと、園児たちは目を輝かせながら「かっこいい」と大喜び。列車を降りて岡山観光に向かう乗客らに「ようこそ岡山へ」と声を掛け、小旗を振って歓迎しました。



瑞風の先頭車両をバックに記念撮影

ライオンズクラブからタオルの寄贈

岡山せとうちライオンズクラブ(LC)など5団体から10月3日、タオル3,456枚を寄贈していただきました。今回で16回目となります。

タオルの寄贈は岡山ひかりLCにより2009年に始まり、現在に至るまで継続して行われています。途中、参加LCも増え、今回は上記2LCの他、岡山操山LC、岡山中央LC、おかやまMOMO LCの5LCで行われました。

旭川荘資料館で開催された贈呈式には、各LCの代表者7人が出席し、神崎晋理事長に目録を手渡しました。神崎理事長は「タオルは必需品。毎年たくさんのタオルをいただき感謝いたします」とお礼を述べました。

いただいたタオルは本部のある祇園地区をはじめ、備前、備中、ひらた、愛媛支部の16施設へ配布し使用させていただきます。



ライオンズクラブの皆さんと

UA ゼンセンが清掃ボランティア

産業別労働組合UAゼンセン岡山県支部の皆さんによる清掃ボランティアが10月7日、祇園地区で行われました。

旭化成労働組合水島支部、クラレ労働組合岡山支部など合わせて110人と旭川荘職員9人が参加。




たくさんの雑草や落ち葉が回収された

前身のゼンセン同盟が1990年より旭川学園の環境整備のボランティアをはじめ、継続して行われています。コロナ禍の中止を経て、今年は旭川学園、愛育寮、総合研究所周辺の敷地の草刈りや、事前に職員が剪定した樹木の枝の集積作業などをしていただき、手の行き届かない場所がすっきりと整いました。

また、毎年日用品をご寄贈いただいております。今回も10月10日にタオルやせっけん、マスク、文房具などたくさんの品を届けてくださいました。



愛育寮周辺で樹木の枝を集めるUAゼンセン岡山県支部の皆さん



旭川荘ごよみ

SCHEDULE CALENDAR

| | |
|------------|---|
| 11月 | 10日 旭川荘創立記念式典(永年勤続表彰式) … 旭川荘 |
| | 11日 秋の清掃活動 … 祇園地区 |
| | 30日~12月1日 第41回旭川荘医療福祉学会(ハイブリッド開催) … 旭川荘 |
| | ☆秋祭り・日帰り旅行 ~各施設 |
| 12月 | ☆クリスマス会・忘年会 ~各施設 |

編集後記

人の想って大切ですよね。法も福祉も組織も人が作り出すものは、人の想いから生まれたものであると考えます。ただ、想いは時とともに忘れ去られ、方法や手段だけが残り、形骸化していきます。故に時々想いを再確認する必要があります。本号よりインタビュー企画が始動しました。色々な想いが語られることを望みます。(広報委員長 長壽厚志)